

依頼者

検体名 安定型次亜塩素酸ナトリウム 100ppm

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木4番1号



2017年(平成29年)03月10日 当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	定量下限	注	方法
有効塩素	110 mg/L			よう素滴定法
				以上

試 験 報 告 書

依 頼 者

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 安定型次亜塩素酸ナトリウム 100ppm

表 題 ウイルス不活化試験

2017 年(平成 29 年)03 月 10 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

ウイルス不活化試験

1 依頼者

2 検 体

安定型次亜塩素酸ナトリウム 100ppm

3 試験概要

検体にネコカリシウイルス又はインフルエンザウイルスのウイルス液を添加，混合し（以下「作用液」という。），所定時間後に作用液中のウイルス感染価を測定した。また，あらかじめ予備試験を行い，ウイルス感染価の測定方法について検討した。

なお，ネコカリシウイルスは，細胞培養が不可能なノロウイルスの代替ウイルスとして広く使用されている。

4 試験結果

1) 予備試験（中和条件の確認）

細胞維持培地で作用液を10倍に希釈することにより，検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した。

2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また，使用細胞及び培地を表-2，試験条件を表-3に示した。

表-1 作用液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /mL			
		開始時	15秒後	30秒後	60秒後
ネコカリシ ウイルス*	検 体	—	<1.5	<1.5	<1.5
	対照(精製水)	7.0	—	—	6.8
インフルエンザ ウイルス	検 体	—	<1.5	<1.5	<1.5
	対照(精製水)	5.8	—	—	6.5

TCID₅₀ : median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

作用温度 : 室温

<1.5 : 検出せず

ウイルス液 : 培養液を精製水で10倍に希釈

* ノロウイルスの代替ウイルス

表-2 使用細胞及び培地

使用細胞	ネコカリシウイルス : CRFK細胞[大日本製薬株式会社] インフルエンザウイルス : MDCK(NBL-2)細胞 ATCC CCL-34株	
細胞増殖培地	10 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①[日水製薬株式会社]	
細胞維持培地	ネコカリシウイルス : 2 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」① インフルエンザウイルス : イーグルMEM培地「ニッスイ」① 1000 mL 10 %NaHCO ₃ 14 mL L-グルタミン(30 g/L) 9.8 mL 100×MEM用ビタミン液 30 mL 10 %アルブミン 20 mL 0.25 %トリプシン 20 mL	

表-3 試験条件

試験ウイルス	<i>Feline calicivirus</i> F-9 ATCC VR-782(ネコカリシウイルス) <i>Influenza A virus</i> (H1N1) A/PR/8/34 ATCC VR-1469 (インフルエンザウイルス)
ウイルス液	細胞培養後のウイルス培養液を遠心分離して得られた上澄み液を精製水で10倍希釈
作用液	検体1 mLにウイルス液0.1 mLを添加
作用条件	15秒, 30秒, 60秒(室温)
中和条件	細胞維持培地で10倍希釈
対照	精製水
感染価測定方法	TCID ₅₀ 法

以 上